

全校集会 校長講話（9月14日）
テーマ：言葉の重みをもう一度考える

おはようございます。

先生が校内を回っていると、各学年やクラスで熱心に文化祭に向けて取組む姿が見られ、とてもあたたかい気持ちになります。仲間と力を合わせて一つのものを創りあげる時間は、学校生活の中でも特にかけがえのないものです。だからこそ、今日は、かけがえのない時間を守るために皆さんに今一度確認したいことがあります。

覚えているでしょうか。4月の全校集会で話をしたテレビCMの猫がなげかける「言葉、ちゃんと使えよ。人間だろ」。先生はあの時、「言葉は料理で使う包丁に似ている」と伝えました。美味しい料理を作って人を笑顔にする道具になる一方で、使い方を間違えて振り回せば、相手を深く傷つける「刃物」になってしまうのだと。

この半年間、皆さんは自分が発する言葉を「人間として」どのように使ってきたでしょうか。軽いノリや一時の感情、あるいは冗談のつもりで発せられた心ない言葉によって、誰かを深く傷つけ、悲しい思いをさせていないでしょうか。

自分が口にした一言が、刃物となって相手の心を切りつけ、学校生活を苦しくさせてしまう。言葉には、それほどまでに恐ろしい攻撃力があることを、私たちは決して忘れてはなりません。「そんなつもりじゃなかった」では済まされない重みが、私たちが発する一言一言にはあるのです。

私たちがめざす田辺中学校は、全員が安心して過ごし、自分らしく学び、成長できる場所です。心ない言葉の刃物によって、誰かの安心や安全が脅かされるようなことを、先生は絶対に許しません。

かけがえのない時間を守るために、

- ・言葉を発する前のほんの一瞬、「今の言葉は刃物になっていないか」と自分に問いかけてみることに。
- ・自分の感情にまかせて相手を切りつける言葉ではなく、思いやる言葉を選ぶこと。
- ・もし周囲で嫌な言葉や傷つける場面を見かけた時には、流されずに止めたり、すぐに先生や大人に相談したりすること。

「言葉、ちゃんと使えよ。人間だろ」

この言葉の本当の重みを、今一度一人一人が真剣に受け止めてください。

一人一人が自分の使う言葉に責任を持ち、互いの安心を守り合える温かい学校を、みんなの力で創っていきましょう。

以上で、先生の話が終わります。